一年学年だより

Ｎｏ．２	５月号
令和７年５月１日	
１０１ＨＲ	

「一人でいるのは」

入学してそろそろ１か月が経とうとしています。新しい生活やクラスには慣れてきたでしょうか？ちょうどこれからが、疲れが表に現れてくる時期だと思います。一にも二にも体調管理です。時々は息抜き・休養もしつつ、生活のリズムをつかんでいきましょう。

これから３年間の高校生活を送るにあたって、皆さんに私の好きな一篇の詩を送りたいと思います。作者は「自分の感受性くらい」や「倚りかからず」と言った詩で知られる、戦後期の詩人茨木のり子。「一人は賑（にぎ）やか」という詩です。

一人は賑やか

一人でいるのは　賑やかだ
賑やかな賑やかな森だよ
夢がぱちぱち　はぜてくる
よからぬ思いも　湧いてくる
エーデルワイスも　毒の茸も

一人でいるのは　賑やかだ
賑やかな賑やかな海だよ
水平線もかたむいて
荒れに荒れっちまう夜もある
なぎの日生まれる馬鹿貝もある

一人でいるのは賑やかだ
誓って負けおしみなんかじゃない
一人でいるとき淋しいやつが
二人寄ったら　なお淋しい
おおぜい寄ったなら
だ　だ　だ　だっと　堕落だな

恋人よ
まだどこにいるのかもわからない　君
一人でいるとき　一番賑やかなヤツで
あってくれ

『永遠の詩②　茨木のり子』（高橋順子選・小学館）より

どうしても我々は、一人でいることを避けようとしがちです。「休日には誰かと会う予定を必ず入れる」、なんていう人もいるでしょう。しかし、人の内面を真に充実させてくれるのは、「一人でいるときの豊かな時間」だと思います。高校生活は、本当にあっという間に過ぎていきます。定期考査、部活動の大会、運動会や文化祭などの学校行事。そうこうしていると、次のステップに進むための入試は目の前に迫ってきます。卒業生たちは、みな「高校生活はあっという間だった」と言います。その時々に全力を挙げるのはとても大切ですが、時にはちょっと立ち止まって、自分自身を見つめる時間を作ってみるのも意義あることではないでしょうか。

地に足のついた、豊かな３年間を送ってください。　（１０１ＨＲ担任）

★★☆☆★★☆☆★★☆☆★★☆☆★★☆☆★★☆☆★★☆☆★★☆☆★★☆☆★★☆☆★

「ネコの時間、ジジイの時間、そしてキミタチの時間」

入学して 3 週間が経とうとしています。地理総合の授業で、「暦」や「時間」が 5 千年前にほぼ完成されていて、現代まで続いている話をしました。時間だけはすべての人に平等に与えられている、とよく言われます。でも、それは 1 日 24 時間がみな同じというだけであって、人生の長さは人それぞれです。うちにはネコが 4 匹いて、去年やってきた母子は、母ネコが推定１歳半、２匹の子ネコはもうすぐ 1 歳。ネコの成長速度はとても速く（というより人間が遅すぎる）、赤ちゃんが半年で中高生になる、そんな成長速度です。中央高校にも素敵に年齢を重ねた先生方がけっこういらっしゃいますが、よく聞く言葉が「1 年が早いよねー」です。高校生の君たちがこのセリフを使う場合とは、かなり違います。なぜなら、還暦を過ぎた私と君たちでは、時間の感覚的な過ぎ方がだいたい 4 倍くらい違うからです。しかし、何かに夢中になると、年齢に関係なく時間はあっという間に過ぎますね。君たちが卒業時に「高校生活あっという間だったなあ」と笑い合える、そんな姿を願っています。

（１０１ＨＲ副担任）